

# 日野市まちづくりマスタープラン（概要版）

全体構成		
序章	<ul style="list-style-type: none"><li>・まちづくりマスタープランの位置づけと役割</li><li>・策定経緯</li><li>・計画の目標年次・将来想定人口</li><li>○日野市の概況</li><li>○時代の変化に対応したまちづくりの課題</li><li>○マスタープラン改訂の基本的な考え方</li></ul>	<div>… 3</div> <div>… 2</div> <div>… 2</div> <div>… 2</div> <div>… 2</div>
第一部 日野のグランド デザイン	第Ⅰ章 まちづくりの基本理念 <ul style="list-style-type: none"><li>・まちづくりの定義・目的・原則</li><li>・まちづくりの責任と役割</li></ul>	
	第Ⅱ章 日野市の目指す姿とまちづくりの方向性 <ul style="list-style-type: none"><li>1 将来都市像</li><li>2 4つの基本方針<ul style="list-style-type: none"><li>1) 記憶と文化を伝えるまち</li><li>2) 暮らしの舞台を支えるまち</li><li>3) 人々が活発に活動するまち</li><li>4) まちづくりを支える仕組み</li></ul></li><li>3 都市構造</li></ul>	<div>… 3</div> <div>… 3</div> <div>… 4</div>
第二部 都市計画 マスタープラン	第Ⅲ章 全体構想 <ul style="list-style-type: none"><li>・土地利用基本計画</li><li>・まちづくり基本計画</li></ul>	<div>… 5</div> <div>… 5～11</div>
	第Ⅳ章 地域別構想 (地域別まちづくり方針) <ul style="list-style-type: none"><li>・地域別まちづくり詳細計画の位置付けと役割</li><li>・地域別まちづくり方針<ul style="list-style-type: none"><li>○大坂上中学校地域</li><li>○第一中学校地域</li><li>○第二中学校地域</li><li>○第四中学校地域</li><li>○平山中学校地域</li><li>○七生中学校地域</li><li>○三沢中学校地域</li><li>○第三中学校地域</li></ul></li></ul>	…12～15

# 序章 マスタープラン改訂の基本的な考え方

## 日野市の概況

### (人口)

- ・17.7万人から18.6万人へ増加（2005～2015年）
- ・高齢人口は6.3%増、生産人口は7.8%減、年少人口比は変わらず。
- ・市南部の丘陵部は人口減

### (都市基盤)

- ・日野バイパスなど、都市計画道路や区画整理事業等が進行
- ・ミニバス再編・拡充、ワゴンタクシー導入など公共交通の充実

### (経済動向)

- ・就業者数は5.4万人から4.9%減少（2006属～2014年）
- ・商・工・農いずれも就業者は減少傾向（イオンモール進出、京王ストア等撤退）
- （日野自動車工場移転（予定）、東芝・メグミルク等の工場撤退）

### (生活支援施設の立地状況)

- ・スーパーや診療所、子育て支援施設や介護サービス施設の利用圏域に地域格差

### (住環境)

- ・万願寺・川辺堀之内等で区画整理が進行
- ・丘陵部において新規の住宅開発等が進行
- ・旧市街地や丘陵部等で空き家が発生

### (防災)

- ・急傾斜地崩壊危険箇所、浸水想定区域が存在

### (今後、顕在化が予想される問題等)

- ・人口減少社会の到来と急激に進む高齢化
- ・都市インフラの一斉更新時期の到来
- ・老朽化が進む団地の更新
- ・生産年齢人口の減少や扶助費増加による自治体財政の硬直化
- ・周辺都市との差別化
- ・女性や若い世代の暮らし方の多様化
- ・健康寿命の延伸
- ・農地や樹林の減少
- ・安全・安心への関心の高まり

## 改訂方針

- 現行計画に基づくまちづくりの成果を評価し、今後対応すべき課題を反映した計画とする。
- 計画の構成については現行のマスタープランを基本とするが、社会情勢の変化等を踏まえ、新たに目指すべき都市像・まちづくりの課題を設定し、その実現に向けた方策を整理する。

## 時代の変化に対応したまちづくりの課題

### ● 持続可能な地域づくり

- ・人口構造バランスのとれた地域へ
- ・便利で暮らしやすい生活圏の形成、拠点・生活圏にふさわしい都市機能の誘導
- ・安心して暮らせるまちの形成、災害への対応
- ・活動の場づくり（空き家、空き教室）

### ● 暮らしの価値を高める地域づくり

- ・ライフスタイルに応じた働き方ができる環境づくり
- ・水と緑と農地のある暮らしの価値の再認識（保全、活用）
- ・地域課題を自ら解決できるまちへ（エリアマネジメント）

### ● 地域で生き看取られるまちづくり

- ・共に活動し支えあえるコミュニティづくり
- ・暮らしの中で健康になるまち、歩く機会の創出、公共交通網の形成
- ・地域と企業の新たな関わり方（リビングラボ）

## 改訂の視点

『暮らしの価値を高めるために』

● 高齢化への対応

● 子育て環境の充実

● 安心・安全な暮らし

● 水とみどりの豊かな暮らし

● 暮らしを支える交通環境

● まちの活力と産業

## まちづくりの課題に対する方針

### ● 今ある地域資源を活用し、高齢者が元気に活動する環境を整える

- 高齢者が元気に歩いて暮らせる自然を活かした環境づくり
- 高齢者が集まる居場所づくり、活動を後押しする環境づくり
- 高齢者が地域で生き看取られる安心で便利な地域づくり

### ● 若い世代・子育て世代の働き方・暮らし方を受け入れる環境を整える

- 子育て世代が地域とつながりを持てる交流の居場所づくり
- 世代の枠を超えて子育てができる環境・地域づくり
- 在宅ワークなど多様な働き方を選べる環境づくり

### ● 災害に備えて地域を知り、地域の防災力を向上する

- 自然災害に柔軟に対処できる防災計画づくり
- 安心して暮らすための、地域住民主体の防災まちづくり
- 老朽団地等の空きストックを地域資源と捉え活用するまちづくり

### ● 水と緑・農地と共にある暮らしの価値を再確認し、まちづくりに活かす

- 水・緑・農地、自然の価値の再確認と保全と活用の仕組みづくり
- 日々の暮らしに水・緑・農地のある環境づくり
- 自然や農地を活かした魅力ある場づくり

### ● 地域ニーズや地域の変化に応じて公共交通網を再編する

- 丘陵地等の不便区域における公共交通の再編
- 地域ニーズ等に応じた公共交通の仕組みづくり

### ● 市の活力となる産業をまちづくりに活かす

- 歴史・文化等の特性や地域ニーズに応じた3駅周辺のまちづくり
- 工業系企業と連携し共存するまちづくり
- 水・緑・農地の魅力を活かしたにぎわいづくり

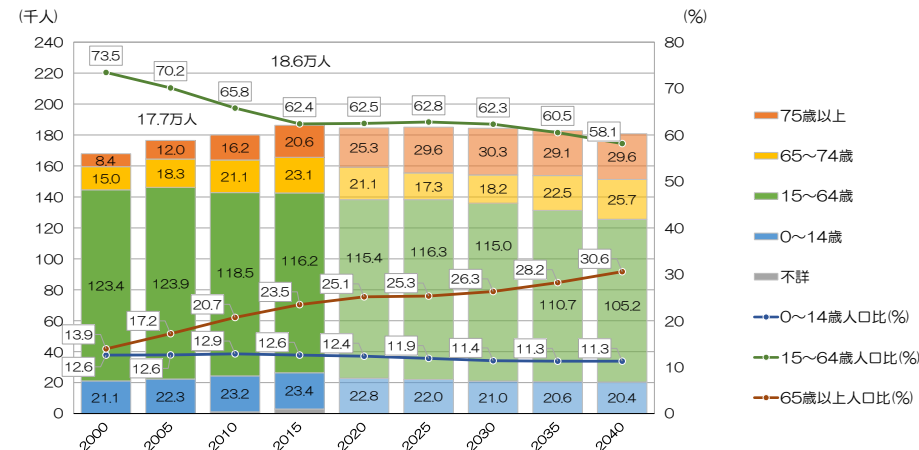
### ● 地域の暮らしを支える仕組みをつくる

- 高齢化等の進行する丘陵部等の暮らしを維持するまちづくり
- 空き家や団地等の空きストックを活用したまちづくり
- 地域コミュニティを支えあう仕組みづくり

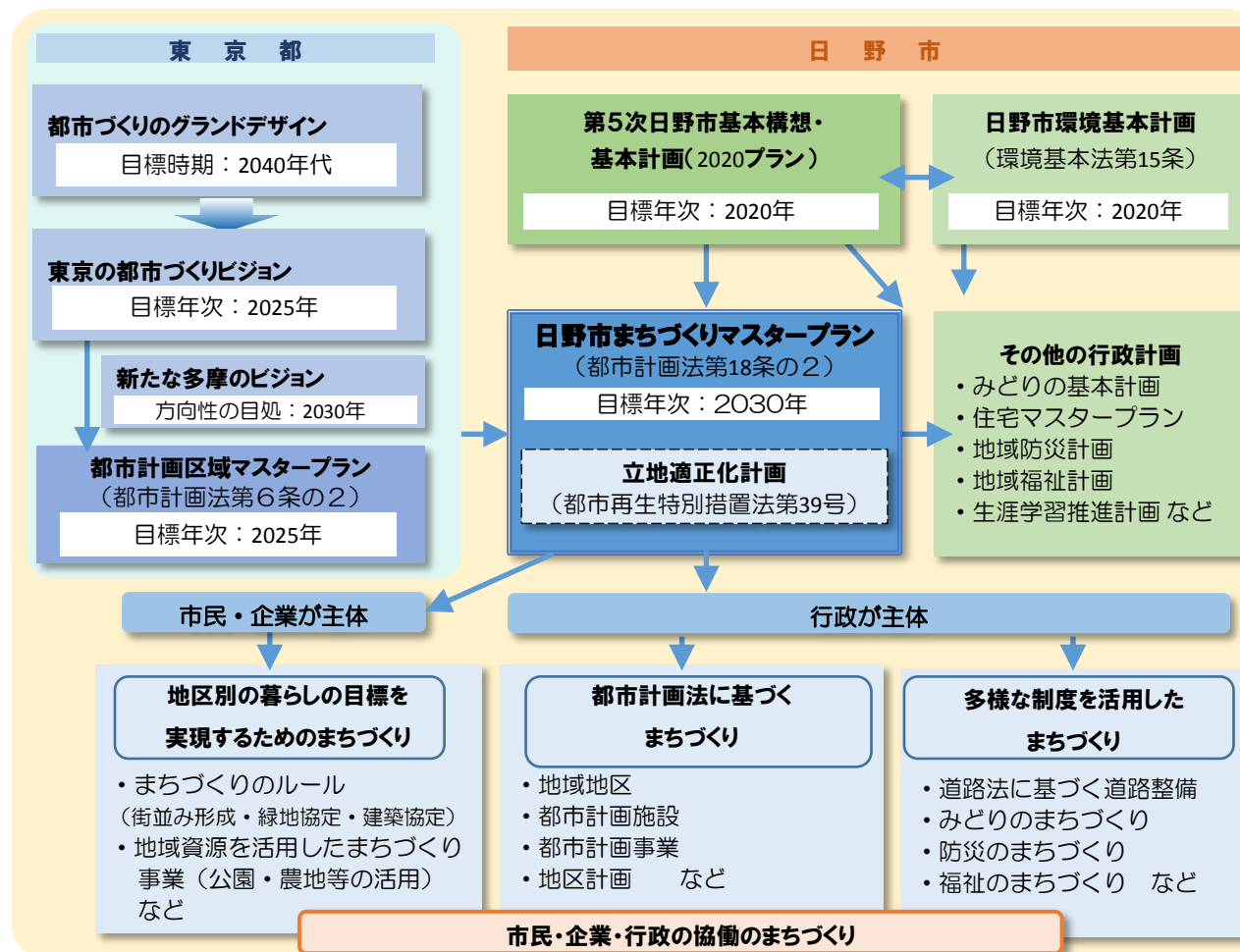
## ・ 想定人口と目標年次

本計画における目標年次は、2019年を基準年次として、10年後の2030年、将来想定人口は185,000人とします。

人口の推移（2005～2015年）と人口推計（2020～2040年）



## ・ まちづくりマスタープランの位置づけ



## 1 将来都市像

## まちづくりの基本理念

- ①市民が主役のまち
- ②水とみどりのまち
- ③つながりを大切にするまち
- ④持続可能なまち

「ともに創ろう心つながる夢のまち日野 ～水とみどりを受けつこう～」

第5次日野市基本構想・基本計画（2020プラン）

## 2 4つの基本方針

- 1) 記憶と文化を伝えるまち
  - 1) 日野の気候風土の産物である自然環境の保全と継承
    - ・多摩丘陵や崖線の樹林地、湧水、水田や用水、そして多摩川や浅川など、水と緑の自然環境を次世代に継承する
  - 2) 生活の履歴である歴史・文化資源の保全と継承
    - ・甲州街道の街道筋や高幡不動など、先人たちの暮らしを感じ取れる歴史・文化資源をまちづくりに活かす
- 2) 暮らしの舞台を支えるまち
  - 1) 将来も変わることなく住み続けられるまちづくりを進める
    - ・超高齢社会の中、すべての人が安心して健康でいきいきと暮らせる、生活圏を形成する
  - 2) 多彩な市民の交流と連携を生み出す交通環境の整備
    - ・それぞれの生活圏相互の往来をしやすくし、市民の多様な活動をつなぐ交通環境を整備する
- 3) 人々が活発に活動するまち
  - 1) 買い物や生活利便性など日々の暮らしの価値を高める
    - ・日野、豊田、高幡不動の3拠点への都市機能の集積や、交流や文化拠点の相互の連携を強化し、日々の暮らしの利便性を高める
  - 2) 日野を支えてきた産業とともに、新たな産業を創出し活力ある都市をつくる
    - ・既存の企業との連携により産業と住環境の調和したまちづくりを推進するとともに、医療・福祉・教育など、住宅都市のニーズに応える新たな都市型産業を創出する
- 4) まちづくりを支える仕組み
 

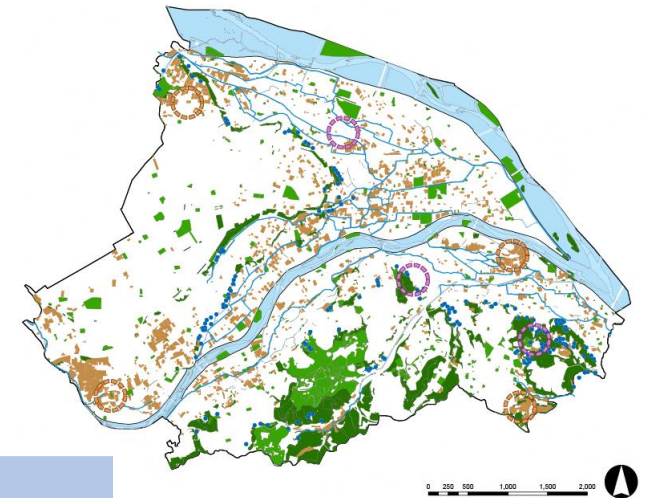
時代と社会のニーズの変化の中、市民一人ひとりが日野を良くしていこうと思えるようなまちづくりを実現するため、まちづくり条例等の仕組みを活用していく

### 3 都市構造



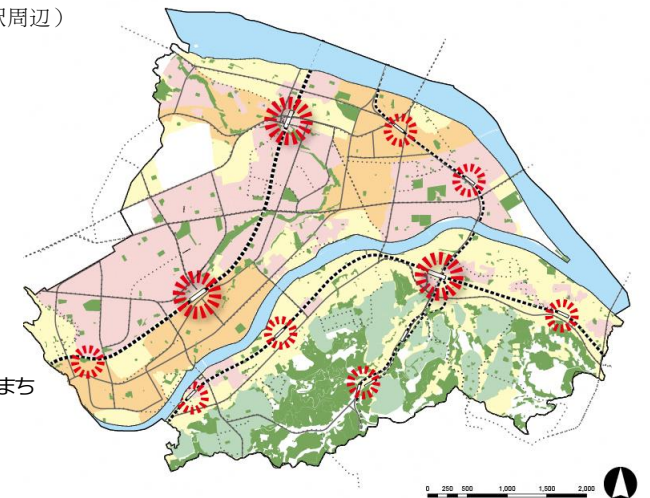
#### 日野の記憶と文化を伝える

- 多摩川・浅川
- 用水
- 公園
- 農地
- 湧水
- 緑地
- 農の拠点
- 歴史と文化の拠点



#### 日野の暮らしの舞台を支える

- 3 拠点（日野駅、豊田駅、高幡不動駅周辺）
- 生活拠点（その他の駅周辺）
- 暮らしを支える主要な道路
- 鉄道
- 公共交通網（バスルート）
- 地域のつながりと絆で安心して暮らせるまち
- 緑や農地と共存する歩いて暮らせるまち
- 成熟した住環境の中で多様な暮らしができるまち
- 豊かな緑に囲まれ住み続けられるまち



#### 日野の記憶と文化を伝える

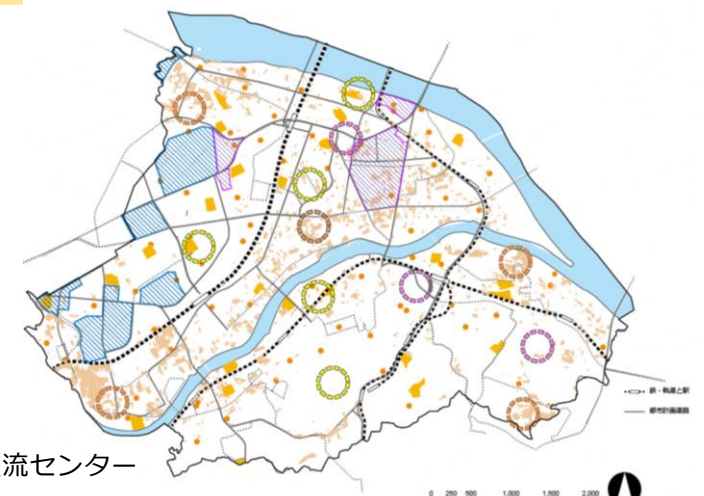
#### 日野の暮らしの舞台を支える

#### 日野の人々が活発に活動する

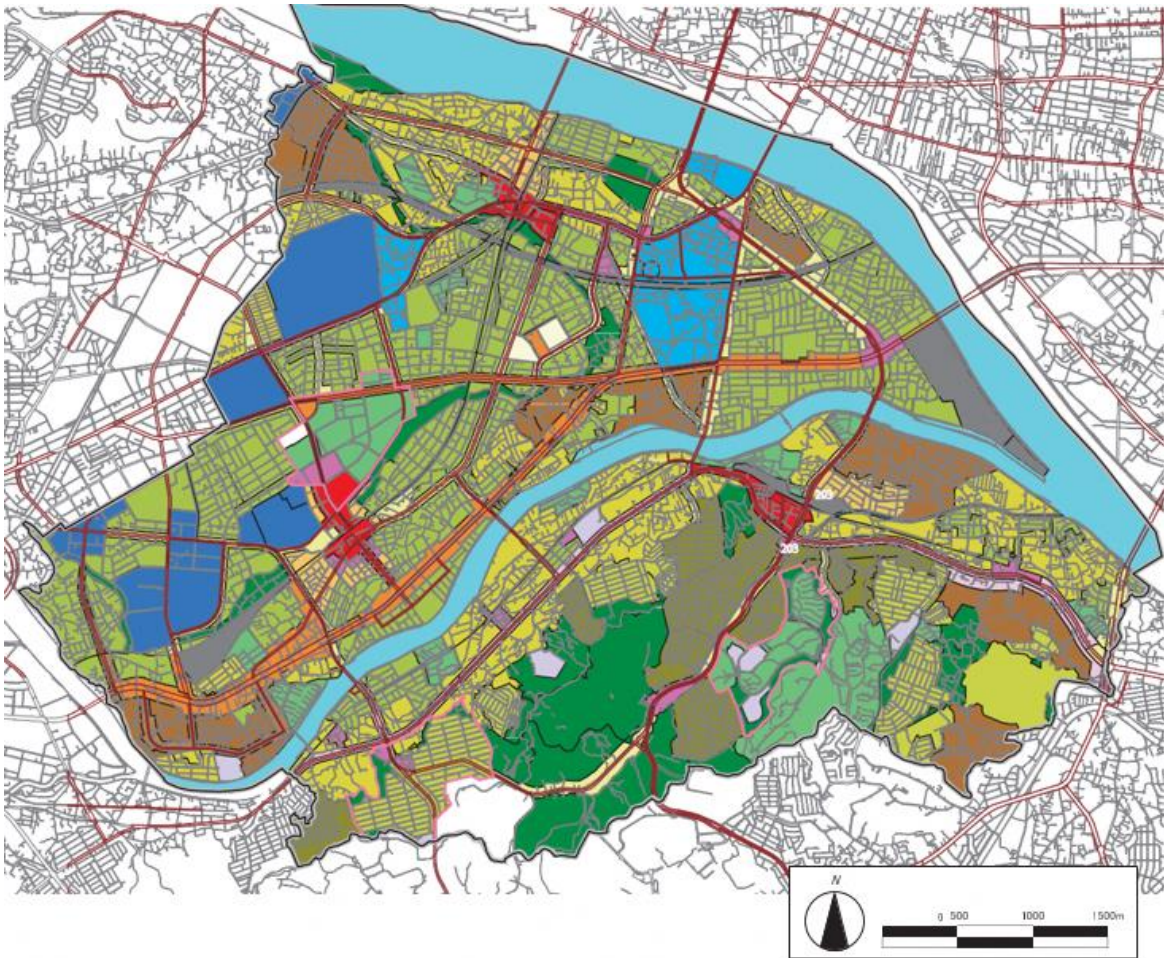
- 多摩川・浅川
- 農地
- 公園・緑地
- （水と緑の保全と活用）
- 3 拠点（日野駅、豊田駅、高幡不動駅周辺）
- 生活拠点（その他の駅周辺）
- 暮らしを支える主要な道路
- 公共交通網（バスルート）
- 交流・健康・スポーツの拠点
- 歴史・文化の拠点
- 農の拠点
- 活力ある産業の振興
- 都市間連絡道路

#### 日野の人々が活発に活動する

- ＜交流と活動の拠点＞
- 交流・健康・スポーツの拠点
- 歴史・文化の拠点
- 農の拠点
- 周辺と調和した活力ある産業
- 住工が共存するまち
- 市民による農地の保全と活用
- 都市間連絡道路
- 小中学校
- 地区センター・交流センター



1 土地利用基本計画



<b>住宅系土地利用</b>	<b>商業系土地利用</b>	<b>自然的土地利用</b>
<div>日野の原風景が残る自然と共存する地域</div>	<div>商業・業務等の都市機能と交通機能が集積した都市拠点</div>	<div>大規模公園・緑地</div>
<div>生活基盤を活かした身近な緑と触れ合える住宅地</div>	<div>生活に密着した商店街のある生活拠点</div>	<div>河川</div>
<div>昔ながらのまち並みを大切にしながら住宅の持続性を高める地域</div>	<div>車利用者へのサービス施設が充実した沿道商業</div>	<b>その他の土地利用</b>
<div>生活基盤を活かした多摩丘陵の豊かな緑と触れ合える住宅地</div>	<div>交通利便性に優れたにぎわいのある近隣サービス型商業</div>	<div>公共公益施設</div>
<div>多摩丘陵の緑豊かな環境を維持しながら住宅の持続性を高める地域</div>	<b>工業系土地利用</b>	<div>操車場・中央自動車道</div>
<div>地域の拠点としての役割を担うにぎわいのある住宅団地</div>	<div>日野の産業と雇用を支える産業拠点</div>	
<div>駅近くの利便性が享受できる共同住宅が集積した住宅地</div>	<div>住工が共存する活気のある地域</div>	
<div>車利用の利便性を実感できる沿道型住宅地</div>		
<div>農のある地域と調和した沿道環境</div>		

2 まちづくり基本計画

基本方針1 記憶と文化を伝えるまちをつくる	1－1. 水音と土の香りがするまちをつくる	水と緑の保全	(1)骨格的な水と緑の保全と継承
		水と緑の育成	(2)水と緑のネットワークの形成
	1－2. 日野人・日野文化を育むまちをつくる	景観	(1)日野の風土と歴史を活かした景観の形成
		歴史・文化	(2)歴史を活かしたまちづくりの推進
	1－3. 水と緑の自然の中で心と体の健康を育むまちをつくる	健康	(1)自らの健康を自らでつくる環境の整備
		生涯学習	(2)生涯を通じて学び、スポーツができる機会の充実

基本方針2 暮らしの舞台を支えるまちをつくる	2－1. 安心して住み続けられるまちづくりを進める	防災	(1)災害に強いまちづくりの推進
		防犯	(2)犯罪や事故が起こりにくい環境の整備
		環境	(3)環境負荷の少ない、自然に配慮したまちづくりの推進
	2－2. 地域の特性を活かした、持続可能なまちづくりを進める	基盤整備	(1)都市基盤の整備と維持・管理
		既成市街地	(2)成熟した既存住宅地の維持・管理
		エリアマネジメント	(3)地域の魅力や価値の維持・向上
	2－3. 多様化する暮らし方を選択し実現できるまちづくりを進める	多様な働き方・暮らし方	(1)多様な働き方や暮らし方ができる環境の整備
		住み続けられる仕組み	(2)ライフステージに合わせて選択できる多様な住まいの提供
	2－4. たくさんの人・もの・情報が交差するまちをつくる	道路	(1)人・もの・情報がスムーズに行き交う道路網の充実
		公共交通	(2)暮らしを支える公共交通網の充実
	2－5. 一人ひとりが個性を輝かせ地域で支え合う環境をつくる	地域コミュニティ	(1)地域コミュニティの継続支援
		福祉	(2)地域コミュニティが中心となる福祉のまちづくりの推進

基本方針3 人々が活発に活動するまちをつくる	3－1. 買い物やレクリエーションなど毎日の暮らしを楽しめるまちをつくる	商業	(1)自由に買い物が楽しめる環境の整備
		観光	(2)内外から人が集まりにぎわうレクリエーションの拠点づくり
	3－2. 日野のまちづくりと共に歩んできた産業とこれからも共に歩む	工業	(1)工業を活性化するまちづくりの推進
		新たな産業	(2)住宅都市の特性を活かした新たな産業の育成
		土地利用転換	(3)地域と共存する土地利用転換の誘導
	3－3. 農地のある暮らしを次世代へつなげる	農地	(1)市民との協働による農地の維持
		農業	(2)生産者と消費者とが協力して次世代へつなげる農業の確立

## 基本方針 1 記憶と文化を伝えるまちをつくる

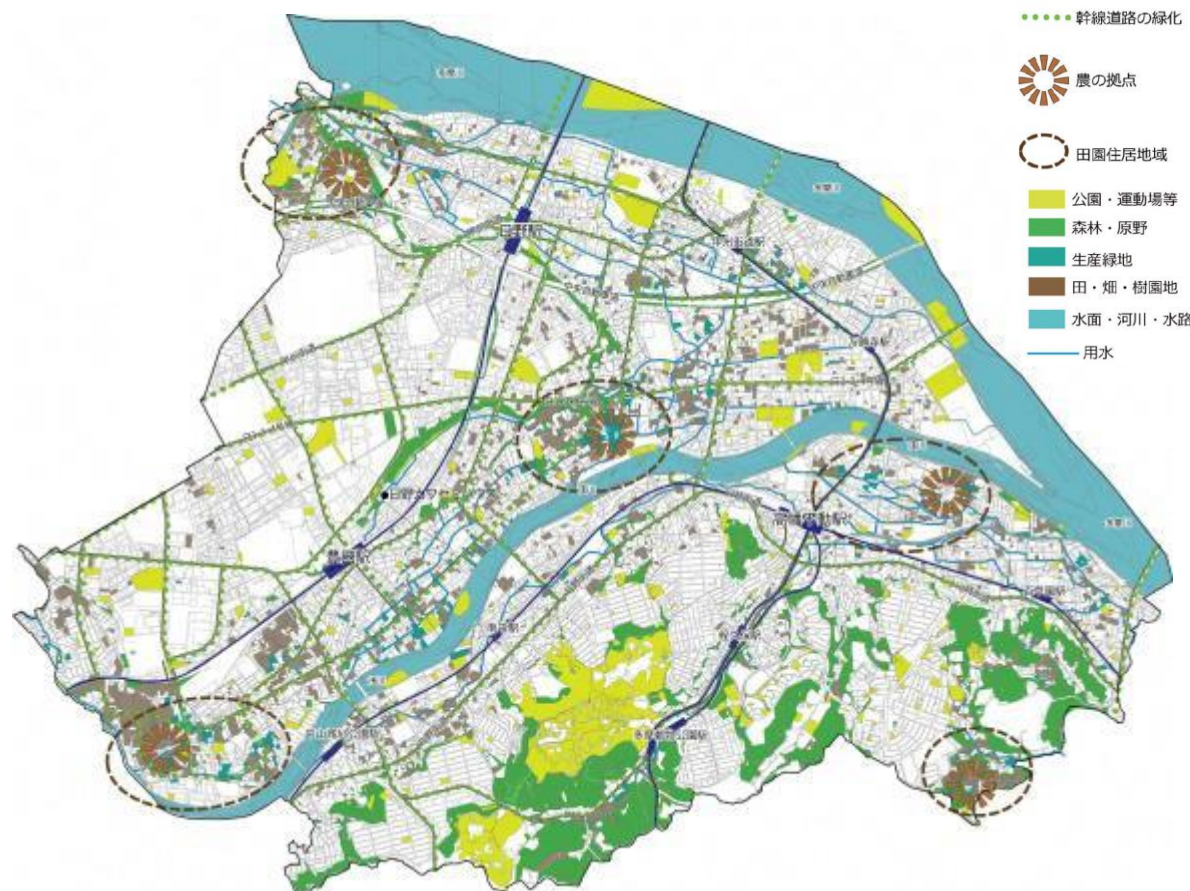
## 1-1. 水音と土の香りがするまちをつくる

## ①水と緑の保全と継承

- 浅川・多摩川・程久保川・谷地川と、網の目のように広がる用水などの生態系、地球温暖化、ヒートアイランド、雨水の貯水機能などの点で重要な場所を保全していきます。
- 公園、緑地の利活用を推進するため、緑の担い手として民間主体を指定する制度等を検討していきます。
- 日野の原風景である、倉沢・新井・西平山・川辺堀之内・東光寺地区を「農の拠点」と位置付け、農地と調和した住環境の実現に向けて、開発規制等を定める田園住居地域の指定を検討していきます。また、農地の利活用の推進するため、みどりや農地の担い手として民間主体を指定する制度等を検討していきます。
- 農地については、環境保全上または防災上のオープンスペースなどの、多面的機能にも着目し、積極的に保全していきます。農業者、農地所有者の意見を尊重しながら、農地の利活用方法や利用主体等の仕組みについて検討していきます。

## ②水と緑のネットワークの形成

- 市街地内の緑のネットワーク化を図るため、市の大半を占める住宅地、数多く分布する公共施設、大規模工場・研究所、大規模団地、多くの人が利用する駅周辺等について、緑化地域制度等を活用し緑化を推進していきます。



## 1-2. 日野人・日野文化を育むまちをつくる

## ①日野の風土と歴史を活かした景観の形成

- 多摩川・浅川の流れ、崖線と多摩丘陵の緑、樹林地に囲まれた大地や用水の流れる農地など、日野市の風土を五感で感じる景観を守り育てていきます。
- 水路については、清流保全条例に基づく用水の開渠化などにより、水路景観の創出を図っていきます。
- 3拠点及び生活拠点、広域幹線道路沿いなど、多くの市民や来訪者が訪れる地域では、無電柱化を推進するなど、日野の顔となる景観づくりを進めていきます。
- 景観形成については、景観法に基づく景観計画・景観条例のほか、まちづくり条例による地区まちづくり計画、地区計画等による景観形成など、複数の手法について検討を進めていきます。



## ②歴史を活かしたまちづくりの推進

- 甲州街道、宿場町として栄えた「日野宿」の「路地」を活かしたまちづくりを推進していきます。
- 『日野宿通り周辺再生・整備基本計画』に基づく、街並みの再生整備事業等を検討します。また、地域の様々な歴史や文化を次世代に継承するイベント等の開催を支援していきます。
- 日野の歴史・生活文化財の再発見と交流の場としての活用（旧蚕糸試験場日野桑園等）（テーマ別意見交換会より）

## 基本方針1 記憶と文化を伝えるまちをつくる

## 1-3. 水と緑の自然の中で心と体の健康を育むまちをつくる

## ①自らの健康を自らでつくる環境の整備

- 水辺を活かした公園や農業公園など多世代の交流を生み出す場を整備します。
- 「外出機会の創出や頻度の向上による普段からの健康づくりに向けて、「歩きやすい」「自然と歩きたくなる」といった外出ししやすい住宅地をつくるとともに、外出のきっかけとなる機能、施設を立地誘導するという、「歩きたくなるまちづくり」を実施していきます。
- 「歩く」だけでなく、総合的な運動ができる場所として、身近な公園や小中学校の体育館やグラウンドなど、既存の施設を活用し、健康に生活できる環境を整備していきます。

## ②生涯を通じて学び、スポーツができる機会の充実

- 地区センター等については、全体計画に基づいて適正な規模を検討し、拠点の再編や必要に応じた整備・活用を進めていきます。施設運用にあたっては、地域ニーズを踏まえた機能を併設する指定管理制度の導入等の民間活力を活用します。
- 総合的な運動ができる場所として、身近な公園や小中学校の体育館やグラウンドなど、既存の施設を有効に活用し、健康に生活できる環境を整備していきます。



## 基本方針2 暮らしの舞台を支えるまち

## 2-1. 安心して住み続けられるまちづくりを進める

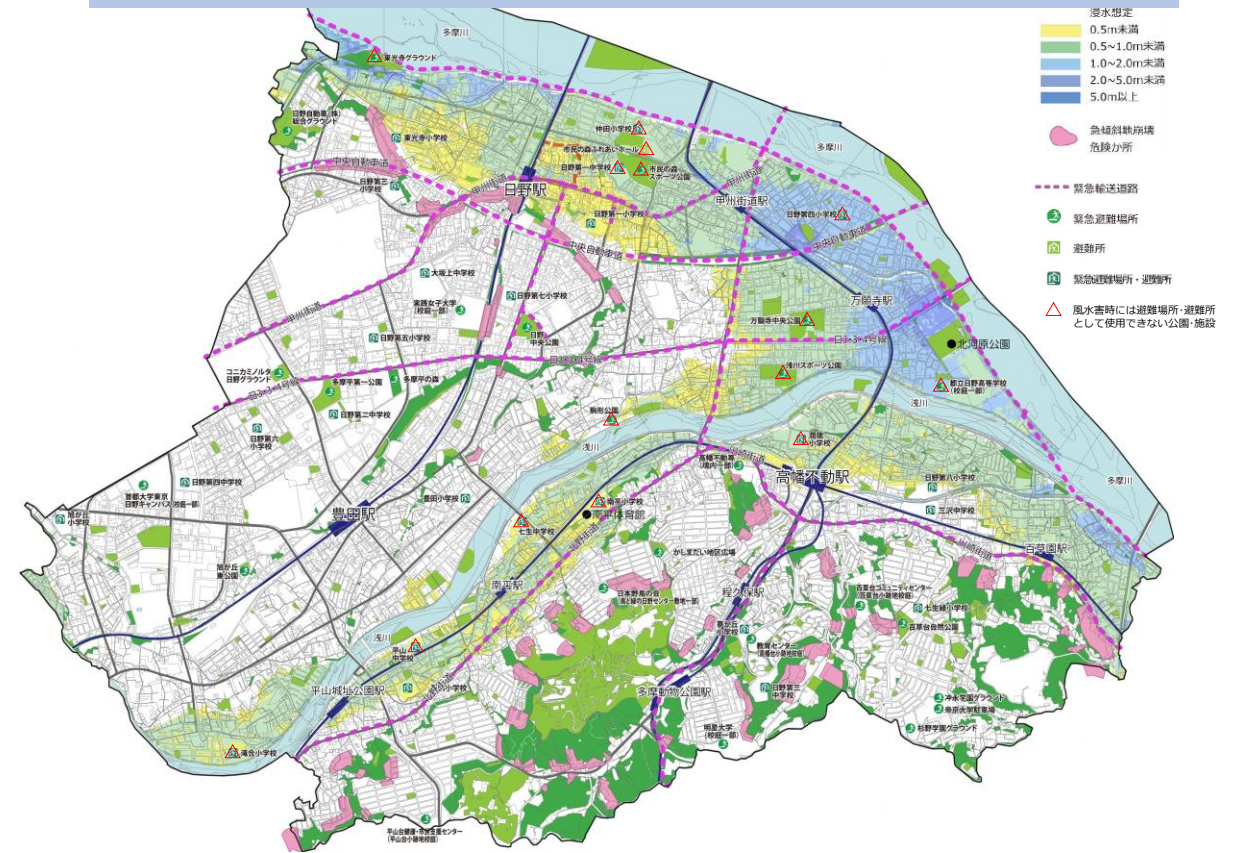
## ①災害に強いまちづくりの推進

- 木造住宅や狭あい道路等が多く、相対的に基盤が十分ではない市街地は、区画整理事業や地区計画の導入により良好な住環境を創出していきます。
- 土砂災害への対応として、崖地の安全性確保に向けた取り組みを推進するとともに、立地適正化計画等により、警戒を要する区域の周知を徹底し、より安全性の高いエリアへの居住を誘導していきます。
- 風水害への対応として、人の生命の危機に関わる水位の浸水想定区域においては、早期の自主避難を促すとともに、緊急時にやむを得ない場合に必要となる垂直避難が可能となるような空間の確保を進めていきます。
- 市街地の安全性向上に向けて、駅や公共施設、規模の比較的大きい民間施設等の再整備の機会を捉え、防災施設等の整備を実施していきます。

## ②犯罪や事故が起こりにくい環境の整備

- 地域住民によるパトロールなどにより防犯の視点で地域をみる目を養い、地域の防犯力を高める取り組みを進めていきます。これらの活動が地域を支えるコミュニティカの向上につながり、空き家や空き地の活用などにつながる事が期待されます。

## ③環境負荷の少ない、自然に配慮したまちづくりの推進



## 基本方針2 暮らしの舞台を支えるまち

## 2-2. 地域の特徴を活かした、持続可能なまちづくりを進める

## ①人口減少社会を見据えた都市基盤整備

- 高齢者が子どもや孫の世代と住み慣れた地域に住み続けることができるよう、自然環境や農地等に配慮しながら**土地区画整理事業**を進めていきます。
- 道路・橋梁・下水道などのインフラについては、**事業の優先度、財政状況、長期を見据えた修繕対応等**の観点から、**計画的な維持管理、改良**を進めていきます。
- 公有地**に関しては、**財政状況**に応じた最適な再配置、及びその**公有地が有していた機能、圏域、取得目的等**を踏まえた**まちづくり用地としての有効活用**を両立させた上で、**地域資源である公有地**を、時代のニーズに合わせて**柔軟に用途転換**できるよう準備を進めます。
- 施設の有効活用、市民の生活の質の向上の観点から、隣接市との**公共公益施設の相互利用**について隣接市と連携し推進していきます。

## ②成熟した既存住宅地の維持・管理

- 一団の**住宅団地**は、地域のコミュニティ活動の拠点となり、**多様な世帯が住まうことのできる住宅団地として再整備**していきます。

- 地区計画や用途地域の**柔軟な運用**により、低層住宅地で許容されていないコミュニティ施設等、**地域に必要な機能を充実**していきます。
- 空き家**に関しては、**管理がされず近隣に迷惑をかける空き家の解消、不動産流通の促進、地域に資する空き家の整備費補助及び空き家活用の促進等**の施策を計画的に進めていきます。

## ③地域の魅力や価値の維持・向上

- 丘陵部住宅地など、今後の人口減少や高齢化への対応が課題となる地区においては、**市民主体のまちづくり提案制度（まちづくり条例）**の推進、空き家の利活用、都市空地の利活用、住み替え等を推進していきます。
- 市民活動を受け入れる場や高齢者の生活支援機能等の確保については、**立地適正化計画制度**を活用し、その位置や機能を明らかにした上で、**地区計画や特別用途地区**を適用していきます。
- 地域住民による**地区まちづくり計画**の策定や、**地域懇談会のアクションプラン**との連携等を通して、地域の**エリアマネジメントの担い手の育成**を支援していきます。

## 2-3. 多様化する暮らし方を選択し、実現できるまちづくりを進める

## ①多様な働き方や暮らし方ができる環境の整備

- 身近な交流・情報交換の場である子育てひろば・移動子育てひろばを拡充するとともに、子育て支援グループの活動を支援していきます。
- 全ての子どもや子育て世代の多様なニーズや相談に切れ目ない対応を行うため、(仮称)**子ども包括支援センター構想**の在り方や体制について検討し、子ども家庭支援センターの虐待防止体制の強化や相談員のスキルアップ、関係機関との連携など、組織的な対応力を強化していきます。
- 商工会など**各産業関係団体と連携**し、多様な働き方を実現する環境の整備に向けた取り組みを進めていきます。

## ②ライフステージに合わせて選択できる多様な住まいの提供

- 自分のライフステージあわせて丘陵部の戸建住宅から低地部あるいは台地部の共同住宅等へ移り住むなど、市内で**スムーズに住み替えを行うことのできる仕組み等**を検討していきます。
- 多様化する働き方や暮らしを支える住まいとして、**シェアハウスやコレクティブハウス**のような新しい居住形態が促進できるような環境を整えていきます。



## 基本方針2 暮らしの舞台を支えるまち

## 2-4. たくさんの人・もの・情報が交差するまちをつくる

## ①人・もの・情報がスムーズに行き交う道路網の充実

- 広域幹線道路である日3・3・2号線、日3・3・4号線を整備・活用していきます。
- 広域幹線道路に接続し、**日常の移動や生活を支える役割を担う地域サービス道路**（補助幹線道路）の整備を進めていきます。
- **歩行者にとって快適な生活道路**とするため、歩車道の分離や植栽帯の設置、車椅子で通行しやすいよう歩道の**段差解消**や**舗装の再整備**等に取り組んでいきます。
- 歩行者と自転車利用者の共存する**遊歩道のネットワーク化**、分かりやすい**サイン計画**について検討していきます。

## ②暮らしを支える公共交通網の充実

- 既存のバス交通システムの路線やダイヤの見直しだけでなく、**デマンド型交通**や**住民運転型コミュニティ交通**などの**地域住民との協働事業**、電動車椅子やゴルフカートのような**小型モビリティ**を利用した**地域内フィーダー交通の実証実験・本格実施**、**タクシー運転業者との連携**などの様々な手法を用いて、**地域の実情に応じた対応策**を検討していきます。**新たな交通システムの利用**に併せて、人や移動手段が**滞留できるような空間**については、周辺の公共空間等との一体的な利活用方法を検討します。



- 幹線バス路線網を補完し、地区ごとのきめ細かいバスサービスを行う密度の高い支線バス網の整備や、ミニバスやワゴンタクシーの効率的な運行等を検討していきます。
- 技術的な進歩によって、AIによる自動運転など人対人とのサービスから、AI対人とのサービスを享受することも想定されます。こうした新しい技術を正しく理解し、抵抗感を低減させつつ、使いこなしていく姿勢が大切です。

## 2-5. 一人ひとりが個性を輝かせ、地域で支え合う環境をつくる

## ①地域コミュニティの継続支援

- 市民と行政が連携し、地域について考え、地域毎の活性化に向けた課題を考え対策を検討し、実行に移すためのきっかけづくりの場である**地域懇談会**を開催し、**アクションプラン**を実施していきます。
- 地域活動の拠点となる施設等については、住宅地内の**空き家等の活用**や、小学校の統廃合によって生じる**空き教室など既存施設の活用**も視野に入れ、地域活動の拠点となる場を確保していきます。
- **地域住民**が自ら地域の困りごとに対して解決できるような、**自助・互助**による、負担の少ない仕組みを作れるような**生活基盤の醸成**を行います。
- 市内で働くことを希望する学生や主婦、高齢者の方などの仕事の創出と社会貢献を実現するための人材バンクとして、地域のニーズを適切に把握し、地域の中での役割を生み出し、適材適所への人材派遣を行うシステムを検討していきます。

## ②地域コミュニティが中心となる福祉対策の推進

- **住み慣れた地域で生き**、看取られる、暮らし・医療・福祉のまちづくりを、多摩平の森の医療福祉連携ゾーンや平山、高幡台団地等での取り組みをモデルとして、必要な地域に展開していきます。
- モデル地域では、**住み替えの仕組み検討**や、高齢化・人口減少が進行する丘陵部住宅地における**エリアマネジメントモデル**として、空き家の活用・再生プロジェクト、地域情報共有プラットフォームの構築などの検討を進めていきます。
- **地域包括支援センター**を核とした在宅医療・在宅介護サービスの充実、**地域住民による高齢者の支援体制**の充実、高齢者が健康で自立した生活を営むための支援の充実等を柱とする福祉施策と連携して、**高齢者の居場所づくり**など、地域の特性に応じたまちづくりを推進していきます。
- 地域の中の身近な場所で、高齢者が気軽に利用できるふれあいサロン等の拠点の整備・運営を支援するとともに、**既存の公共施設の有効活用**、**余裕教室や空き家の活用**など、**地域に開かれた多様な高齢者の集いの場**を確保していきます。
- **地域住民及び地域で活動する団体等が諸力を合わせ**、住まいや暮らしを含めた福祉的地域課題を把握し、その解決を試みる仕組みと地域住民の福祉的個別課題を**包括的に支援する体制**をつくり、より一層暮らしやすいコミュニティの形成を進めていきます。

## 基本方針3 人々が活発に活動するまちをつくる

## 3-1. 買い物やレクリエーションなど毎日の暮らしを楽しむまちをつくる

## ① ライフスタイルに合わせて自由に買い物ができる環境の整備

- **3拠点**（日野、豊田、高幡不動駅）**周辺**は、さまざまな人々が訪れ、住み、働き、遊ぶ、**重層的な魅力のあるまち**を目指し、**歩行者の利便性と快適性を重視**したまちづくりを進めていきます。
- 3拠点以外の駅周辺では、**高齢者が身近な生活圏の中で買い物ができる住環境の充実**に向け、**立地適正化計画**を活用し**都市機能を誘導**していきます。
- 日野の自然環境や農産物等の資源をつなぐ**日3・3・2号線沿道**では、**周辺地域の利便性の向上や活性化に寄与する土地利用**を誘導していきます。

## ② 内外から人が集まりにぎわう拠点づくりの推進

- **高幡不動尊・多摩動物公園**等は、公共交通による相互のネットワークの強化等により、**滞留性と回遊性のあるレクリエーション拠点づくり**に取り組みます。
- 商工会による**観光まちづくりプラットフォーム**等と連携し、日野の**自然と歴史の要素を相互につなげる面的な観光施策**を推進していきます。
- インバウンド誘客に向けた**情報発信**や**受け入れ環境の整備**など、**外国人目線の観光まちづくり**を、**民泊のあり方**を含めて地域住民と検討していきます。
- 回遊性を向上するため、統一された**分かりやすい公共サインづくり**や看板類のガイドラインづくりを検討していきます。



## 3-2. 日野のまちづくりと共に歩んできた産業とこれからも共に歩む

## ① 工業を活性化するまちづくりの推進

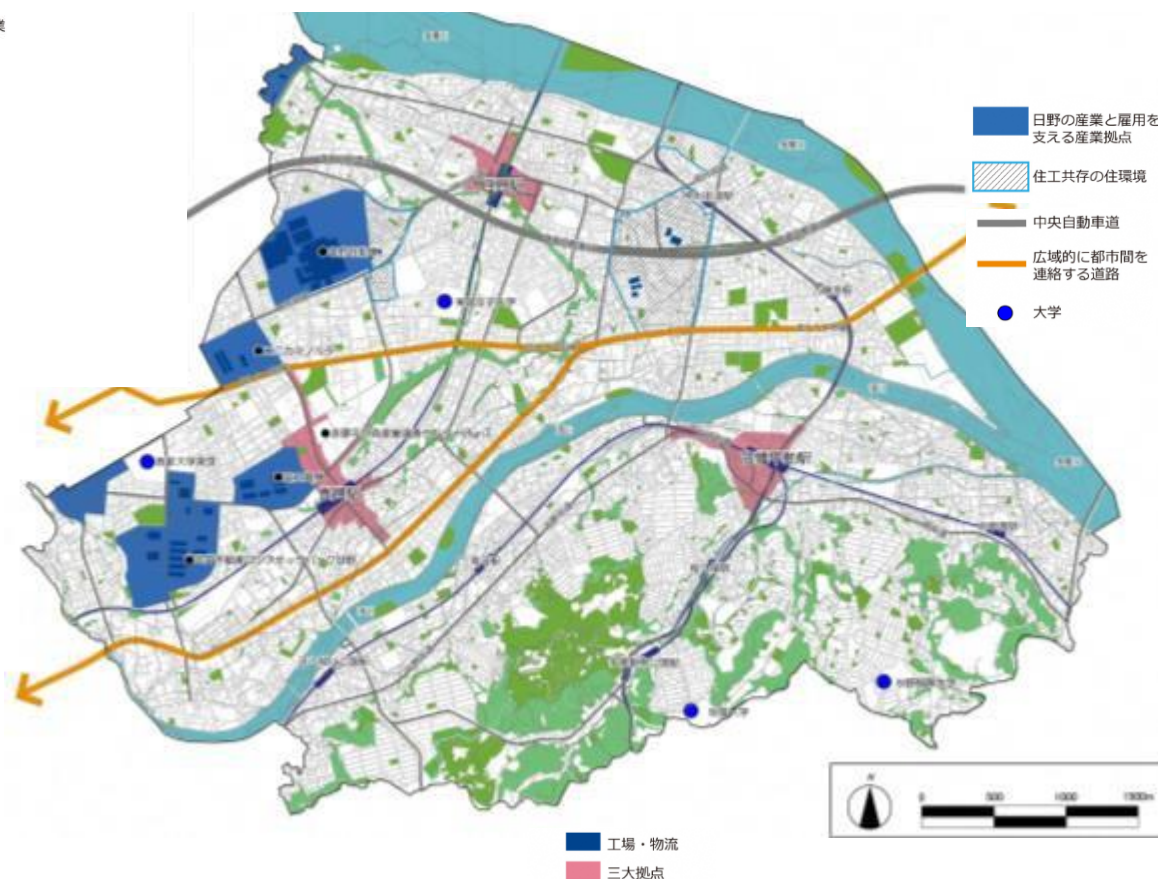
- 工業用途と住宅が既に混在している地域では、生産・操業の場であることを前提としつつ、**住工共存のまちづくり**に向けて、工場の騒音・振動等の抑制や緑化の推進などを進め、**工場操業に対する住民の理解促進**を図っていきます。

## ② 住宅都市の特性を活かした新たな産業の育成

- テレワークなど**場所の制約を受けない多様な働き方**を受け入れるため、住宅地にある**既存の公共施設や空き家の活用**や**情報通信の基盤整備**等を検討します。
- 高齢化等に伴い住宅地や団地において生じる**生活課題を解決**するような**新たな産業の誘致・創出**をまちづくりとともに進めていきます。
- **市・企業・大学・地域住民など多様な主体が、地域の課題解決に向けて協働するリビングラボ**に取り組んでいきます。
- 丘陵住宅地の高齢者の**小さな生活圏での移動販売**の仕組みなどを検討していきます。

## ③ 地域と共存する土地利用転換の誘導

- 現在**産業系の土地利用**については、**可能な限り継続**していきます。社会情勢変化によりやむを得ず土地利用転換が行われる場合には、**予め対話**を行い、土地利用の方針を見出していきます。



## 基本方針3 人々が活発に活動するまちをつくる

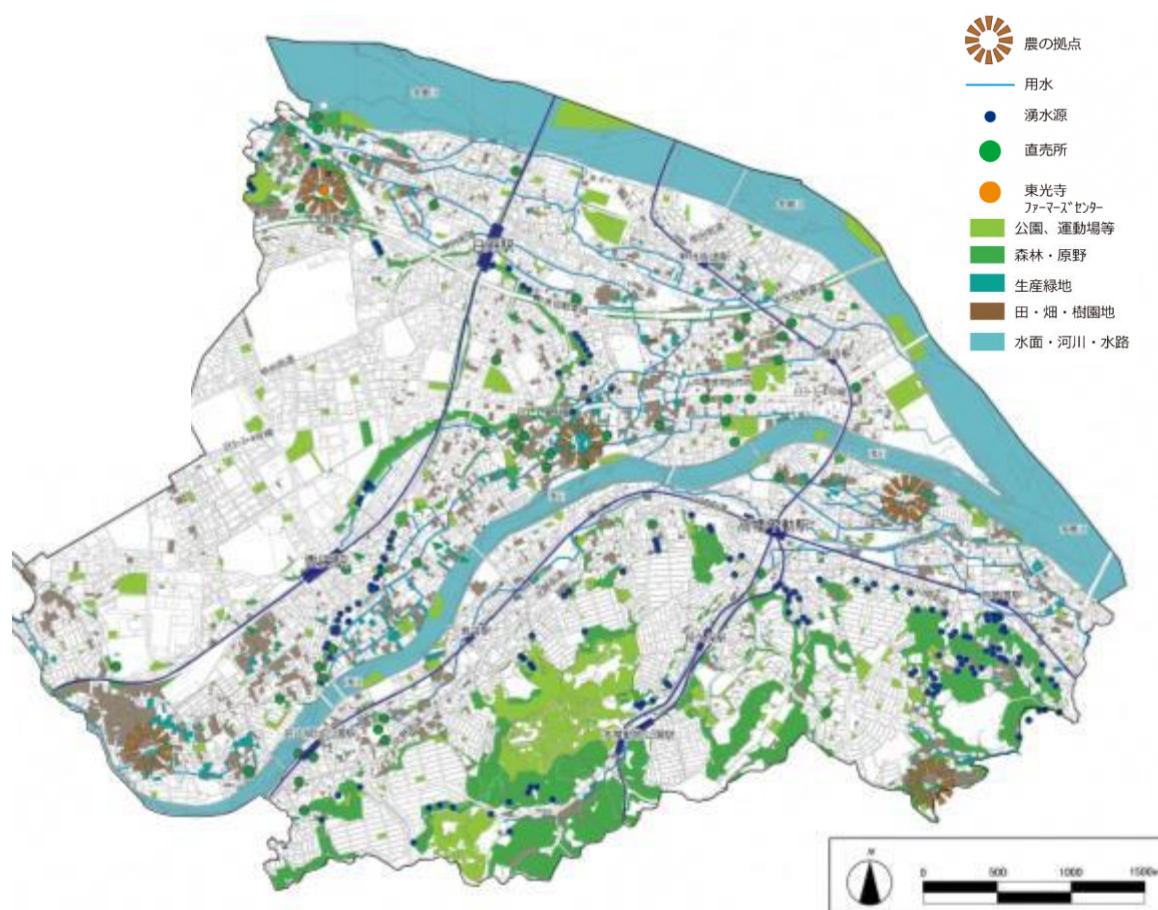
## 3-3. 農地のある暮らしを次世代へつなげる

## ①市民との協働による農地の維持

- 農の拠点や浅川北部に広がる農地の連なりを保全するため、**生産緑地の拡充**や残すべき農地の検討、**農地の公有地化等**に取り組んでいきます。
- 川辺堀之内地区や西平山地区において、**農地を保全する土地区画整理事業**を推進していきます。
- 都市緑地法や都市公園法、生産緑地法等の改正による新規施策として、都市農地の保全を図るため、生産緑地面積要件の緩和による**小規模農地の集約**や、**田園住居地域の指定**による農地の開発規制等に取り組んでいきます。
- 農業者の現状と課題をふまえ、**農地保全のための制度**や**支援方策**、**企業等の参画**による**農業経営の在り方等**について、**農業者および農業関係者とともに検討**していきます。
- 都市農業を守り育てるため、**地域住民や事業者の農業への関わり方**を検討していきます。

## ②生産者と消費者とが協力して次世代へつなげる農業の確立

- 耕作放棄地や後継者問題**など農業者の現状と課題をふまえ、農地保全のための制度や支援方策、**企業等の参画による農業経営の在り方等**について、農業者および**地域住民とともに検討**していきます。
- 都市公園法や生産緑地法等の改正による新規施策として、**生産緑地地区内の直売所**や**農家レストラン**の設置等、**農業を身近にする交流の場**の整備を進めます。



## 第Ⅳ章 地域別構想

## 第二部 都市計画マスタープラン

### ○大坂上中学校地域

	日野の玄関のあるまち
自然・農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩川の流れ、湧水、崖線の緑等、身近な自然や農を守り・活かす。</li> <li>●ファーマーズセンターを中心に東光寺周辺の農地・用水を活かし、農あるまちづくりを進める。</li> </ul>
住宅地・生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市役所や大学、中央公園など、多くの人が集まる公共施設の集積を活かし、コミュニティの拠点を作る。</li> <li>●新町周辺の生活道路等を整備し、安全性と暮らしやすさを高める。</li> </ul>
拠点・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日野の玄関口である日野駅周辺に賑わいと安らぎのある空間を創る。</li> <li>●日野自動車工場の移転後も、日野を支える産業拠点等として、地域と共存・連携する跡地の活用を検討する。</li> </ul>

日野緑地（崖線）の緑の保全・周辺の緑とのネットワーク化

低層住宅地の既存不適格建物への対応

多摩川に親しむウォーキングルートの連続性と快適性の向上

日野の玄関となる、駅周辺の賑わいと安らぎの空間の創出

多くの人が集う市役所・中央公園周辺を主要な公共施設の集積する交流の拠点へ

ファーマーズセンターを核として、公園や周辺の農地・用水を活かした農の拠点へ

予め対話を行い、今後の土地利用を検討

### ○第一中学校地域

	かつての日野人の心が息づくまち
自然・農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>●市民の森スポーツ公園、仲田公園などの緑豊かな環境を、多くの人が集まる水と緑の拠点とする。</li> <li>●万願寺中央公園周辺を、浅川や水路などを回遊できる、水と緑の拠点とする。</li> </ul>
住宅地・生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日野駅周辺の人口増に対応して、医療施設や子育て支援施設を誘導する。</li> <li>●特養、優良老人ホームなど福祉施設の集積するエリアで、安心して暮らせるまちづくりを進める。</li> </ul>
拠点・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●日野駅から甲州街道沿いでは旧日野宿本陣等を活かして風情と賑わいのある空間を創る。</li> <li>●モノレール甲州街道駅、万願寺駅周辺を、福祉施設や商業施設を活かした生活拠点とする。</li> <li>●昔からの工場が操業継続できる、住工が共存する活力ある地域へ再生する。</li> </ul>

市民の森スポーツ公園・仲田の森系公園周辺を水と緑の拠点へ

甲州街道駅周辺を福祉施設や商業施設を活かした生活拠点へ

交通結節機能の強化と都市機能の誘導

多摩川に親しむウォーキングルートの連続性と快適性の向上

日野宿本陣の公益施設を活かした甲州街道沿道の賑わいの創出・回遊性の向上

日野の玄関となる駅周辺の賑わいと安らぎ空間の創出

公共施設の再編・更新による交流の場づくり

大規模な土地を活かした土地利用の誘導

万願寺グラウンド用地の防災まちづくりへの活用

万願寺駅周辺を既存の公共施設等を活用したふれあいの場や子育て環境の充実した生活拠点へ

#### 住宅系土地利用

- 日野の原風景が残る自然と共存する地域
- 生活基盤を活かした身近な緑と触れ合える住宅地
- 昔ながらのまち並みを大切にしながら住宅の持続性を高める地域
- 地域の拠点としての役割を担うにぎわいのある住宅団地
- 駅近くの利便性が享受できる共同住宅が集積した住宅地
- 車利用の利便性を実感できる沿道型住宅地

#### 商業系土地利用

- 商業・業務等の都市機能と交通機能が集積した都市拠点
- 車利用者へのサービス施設が充実した沿道商業

#### 工業系土地利用

- 日野の産業と雇用を支える産業拠点
- 住工が共存する活気のある地域

#### 自然的土地利用

- 大規模公園・緑地
- 河川
- 都市・生活拠点の機能充実
- 沿道の施設誘導
- 余裕教室等を地域の活動拠点として利活用

- 公園
- 農地
- 用水

- スーパー・コンビニ
- 小学校・中学校
- 幼稚園・保育園
- 病院・診療所
- 福祉サービス施設
- 地域包括支援センター
- 地区センター・交流センター

## 第Ⅳ章 地域別構想

### ○第二中学校地域

	緑の丘と水音が聞こえるまち
自然・農地	●崖線の雑木林や湧水等の、多様な自然が残された清流公園などを保全・活用していく。
住宅地・生活基盤	●日野台周辺の狭隘道路を改善し、歩きたくなるまちづくりを進める。 ●豊田駅北側は医療・福祉施設等の集積を活かし、高齢者が安心して暮らせる住環境を形成する。 ●豊田駅南側は土地区画整理事業に併せ、浅川沿線の緑や農地と共存する街並み形成を進める。
拠点・産業	●豊田駅北口は、多摩平の森計画で進められた商業施設や交流施設の整備を活かし駅周辺の活力を更に向上させる。 ●豊田駅南口は、区画整理事業にあわせて親しみのある地元密着の商業地を形成する。

生活道路の整備等を通した歩きたくなるまちづくり

多摩平の森地区  
重点地区まちづくり

医療・福祉施設等の集積を活かした子どもから高齢者まで安心して暮らせる住環境の形成・緑のネットワーク化

商業施設や交流施設の集積を活かし駅周辺の使いやすさと活力を更に向上・地域のイベント等、人と人との接点をつくる場の確保

区画整理事業とあわせた浅川沿いの緑や農地・用水路と共存する街並みの形成

カワセミハウスを拠点とした、黒川 清流公園一帯の崖線の雑木林や湧水 など多様な自然の保全・活用

シンボルロードの整備・歩道を活用した賑わい空間の創出

水と緑を楽しむ浅川沿いの遊歩道・水と親しめる交流空間づくり

都市計画道路 日3・3・2号線の整備促進・生活利便施設等の立地誘導

豊南橋の設置の検討

### ○第四中学校地域

	緑の丘に産学民が共に歩むまち
自然・農地	●公園や工場・幹線道路沿いの街路樹の緑など、多様な形の緑のある街並みをつくる。 ●西平山の緑や農地を保全・活用しながら区画整理を進め、農の拠点を創る。
住宅地・生活基盤	●数多く立地する企業と連携し、操業環境と住環境の共存するまちづくりを進める。 ●西平山では、生活支援機能や公共交通の利便性を高め、安心して住みつづけられるまちづくりを進める。
拠点・産業	●豊田駅北口は、周辺の企業・地域住民など多くの人が使いやすく魅力のある駅前空間として整える。 ●企業や工場、大学などが協働し、潤いのある街並みや活力あるまちづくりを進めていく。

公園や工場・幹線道路沿いの街路樹の緑のネットワーク化など、多様な緑のある街並みの創出と憩いの場づくり

企業と連携し操業環境と住環境の共存するまちへ

通勤者と地域商業が結び付き、多くの人が使いやすく魅力のある駅前空間の充実・活動拠点の創出

企業や工場、大学などが協働し、地域主体の潤いのある街並みと活力のあるまちづくり

交通結節点機能の確保や交流の場の創出・公共交通の利便性を高め、安心して住みつづけられるまちへ

区画整理により緑や農地を保全・活用した農の拠点の形成

都市計画道路日3・3・2号線の整備による交通環境と利便性の向上・生活利便施設の充実

## 第二部 都市計画マスタープラン

### 住宅系土地利用

- 日野の原風景が残る自然と共存する地域
- 生活基盤を活かした身近な緑と触れ合える住宅地
- 昔ながらのまち並みを大切にしながら住宅の持続性を高める地域
- 地域の拠点としての役割を担うにぎわいのある住宅団地
- 駅近くの利便性が享受できる共同住宅が集積した住宅地
- 車利用の利便性を実感できる沿道型住宅地

### 商業系土地利用

- 商業・業務等の都市機能と交通機能が集積した都市拠点
- 車利用者へのサービス施設が充実した沿道商業

### 工業系土地利用

- 日野の産業と雇用を支える産業拠点
- 住工が共存する活気のある地域

### 自然的土地利用

- 大規模公園・緑地
- 河川

- 都市・生活拠点の機能充実
- 沿道の施設誘導
- 余裕教室等を地域の活動拠点として利活用

- 公園
- 農地
- 用水

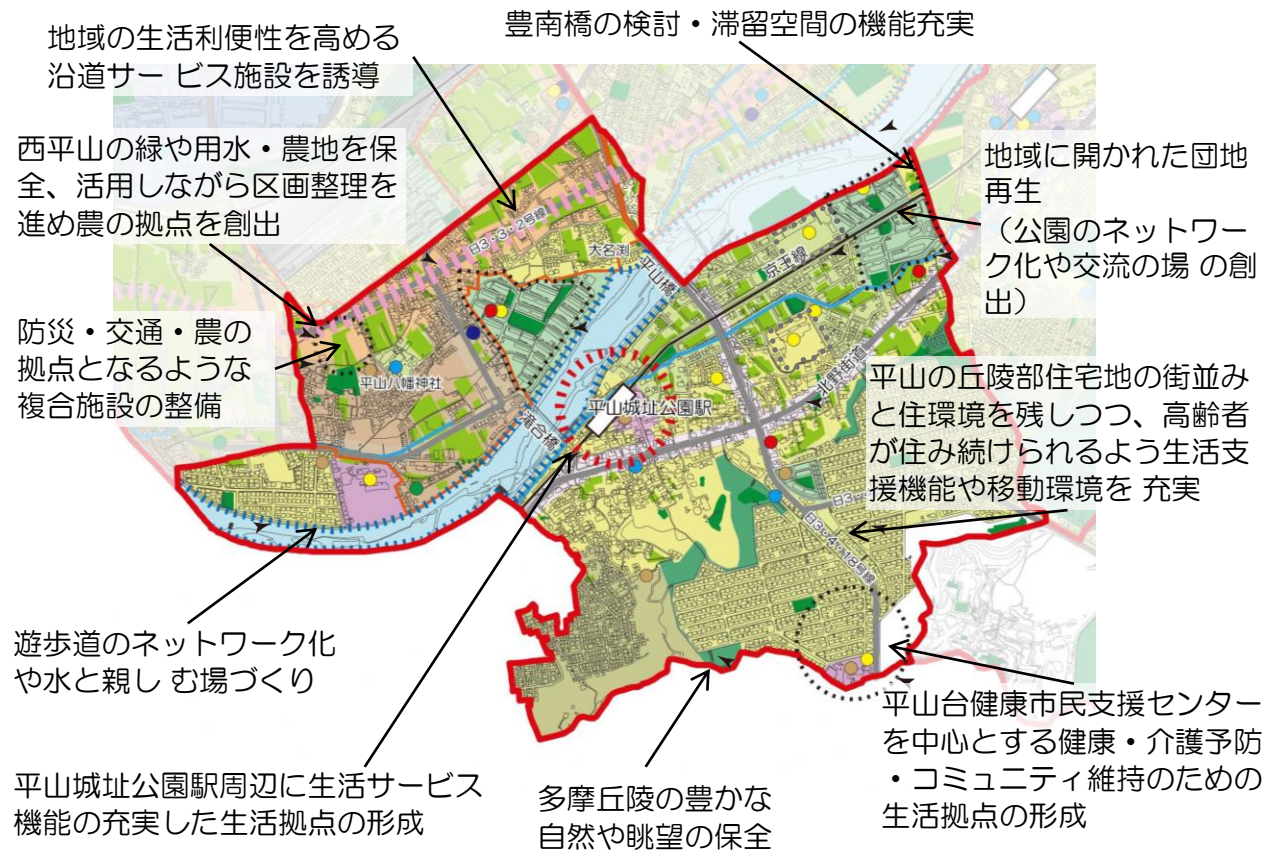
- スーパー・コンビニ
- 小学校・中学校
- 幼稚園・保育園
- 病院・診療所
- 福祉サービス施設
- 地域包括支援センター
- 地区センター・交流センター

## 第Ⅳ章 地域別構想

## 第二部 都市計画マスタープラン

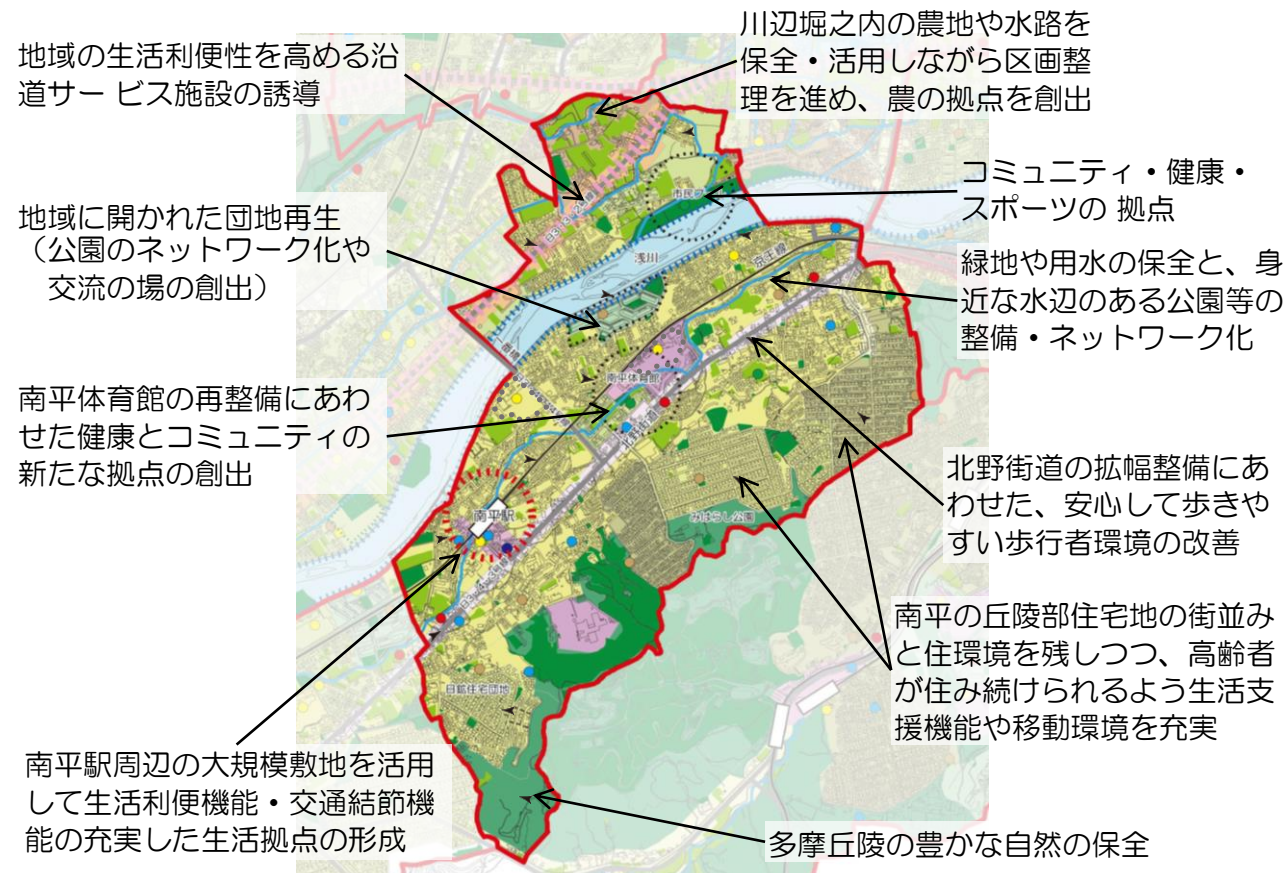
### ○第二中学校地域

	緑の丘と水音が聞こえるまち
自然・農地	●崖線の雑木林や湧水等の、多様な自然が残された清流公園などを保全・活用していく。
住宅地・生活基盤	●日野台周辺の狭隘道路を改善し、歩きたくなるまちづくりを進める。 ●豊田駅北側は医療・福祉施設等の集積を活かし、高齢者が安心して暮らせる住環境を形成する。 ●豊田駅南側は土地区画整理事業に併せ、浅川沿線の緑や農地と共存する街並み形成を進める。
拠点・産業	●豊田駅北口は、多摩平の森計画で進められた商業施設や交流施設の整備を活かし駅周辺の活力を更に向上させる。 ●豊田駅南口は、区画整理事業にあわせて親しみのある地元密着の商業地を形成する。



### ○第四中学校地域

	緑の丘に産学民が共に歩むまち
自然・農地	●公園や工場・幹線道路沿いの街路樹の緑など、多様な形の緑のある街並みをつくる。 ●西平山の緑や農地を保全・活用しながら区画整理を進め、農の拠点を創る。
住宅地・生活基盤	●数多く立地する企業と連携し、操業環境と住環境の共存するまちづくりを進める。 ●西平山では、生活支援機能や公共交通の利便性を高め、安心して住みつづけられるまちづくりを進める。
拠点・産業	●豊田駅北口は、周辺の企業・地域住民など多くの人が使いやすく魅力のある駅前空間として整える。 ●企業や工場、大学などが協働し、潤いのある街並みや活力あるまちづくりを進めていく。



#### 住宅系土地利用

- 日野の原風景が残る自然と共存する地域
- 生活基盤を活かした身近な緑と触れ合える住宅地
- 昔ながらのまち並みを大切にしながら住宅の持続性を高める地域
- 地域の拠点としての役割を担うにぎわいのある住宅団地
- 駅近くの利便性が享受できる共同住宅が集積した住宅地
- 車利用の利便性を実感できる沿道型住宅地

#### 商業系土地利用

- 商業・業務等の都市機能と交通機能が集積した都市拠点
- 車利用者へのサービス施設が充実した沿道商業

#### 工業系土地利用

- 日野の産業と雇用を支える産業拠点
- 住工が共存する活気のある地域

#### 自然的土地利用

- 大規模公園・緑地
- 河川

- 都市・生活拠点の機能充実
- 沿道の施設誘導
- 余裕教室等を地域の活動拠点として利活用

- 公園
- 農地
- 用水

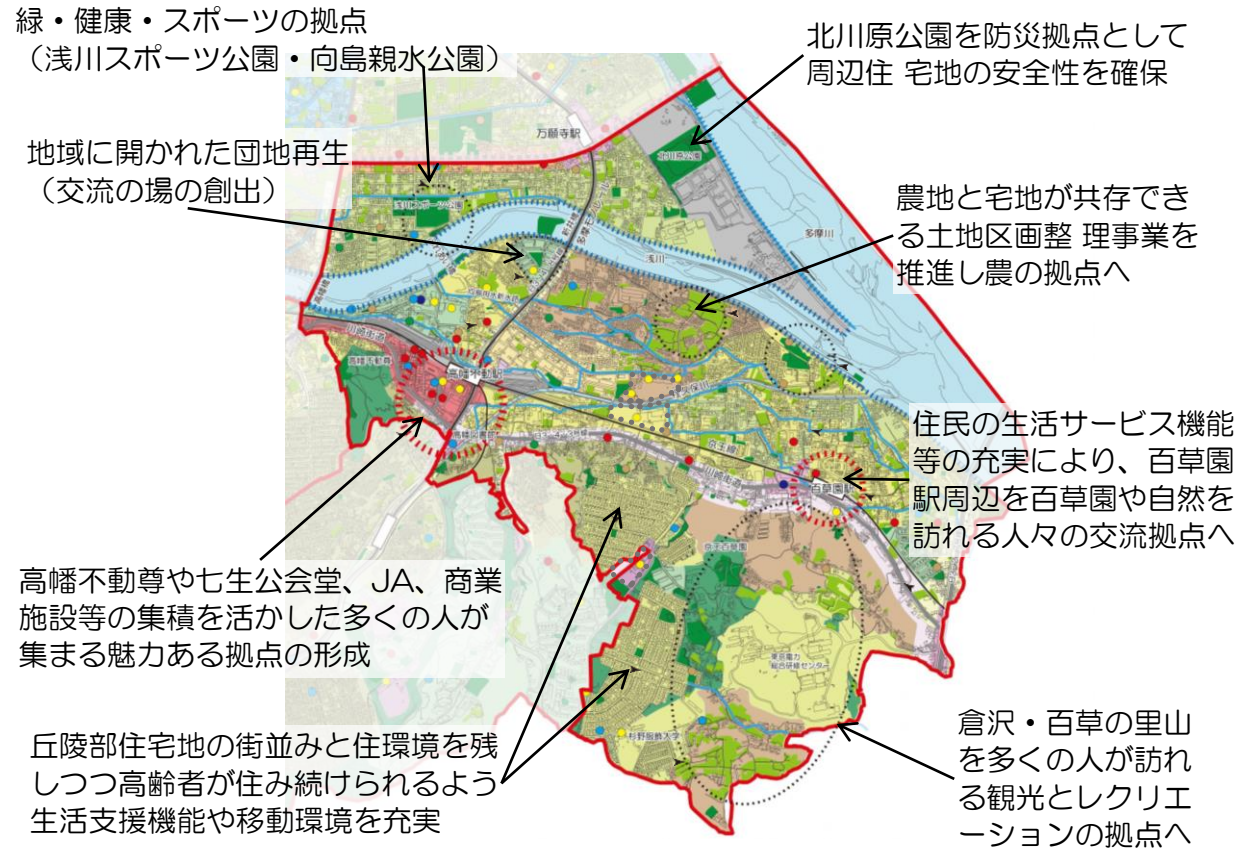
- スーパー・コンビニ
- 小学校・中学校
- 幼稚園・保育園
- 病院・診療所
- 福祉サービス施設
- 地域包括支援センター
- 地区センター・交流センター

## 第Ⅳ章 地域別構想

## 第二部 都市計画マスタープラン

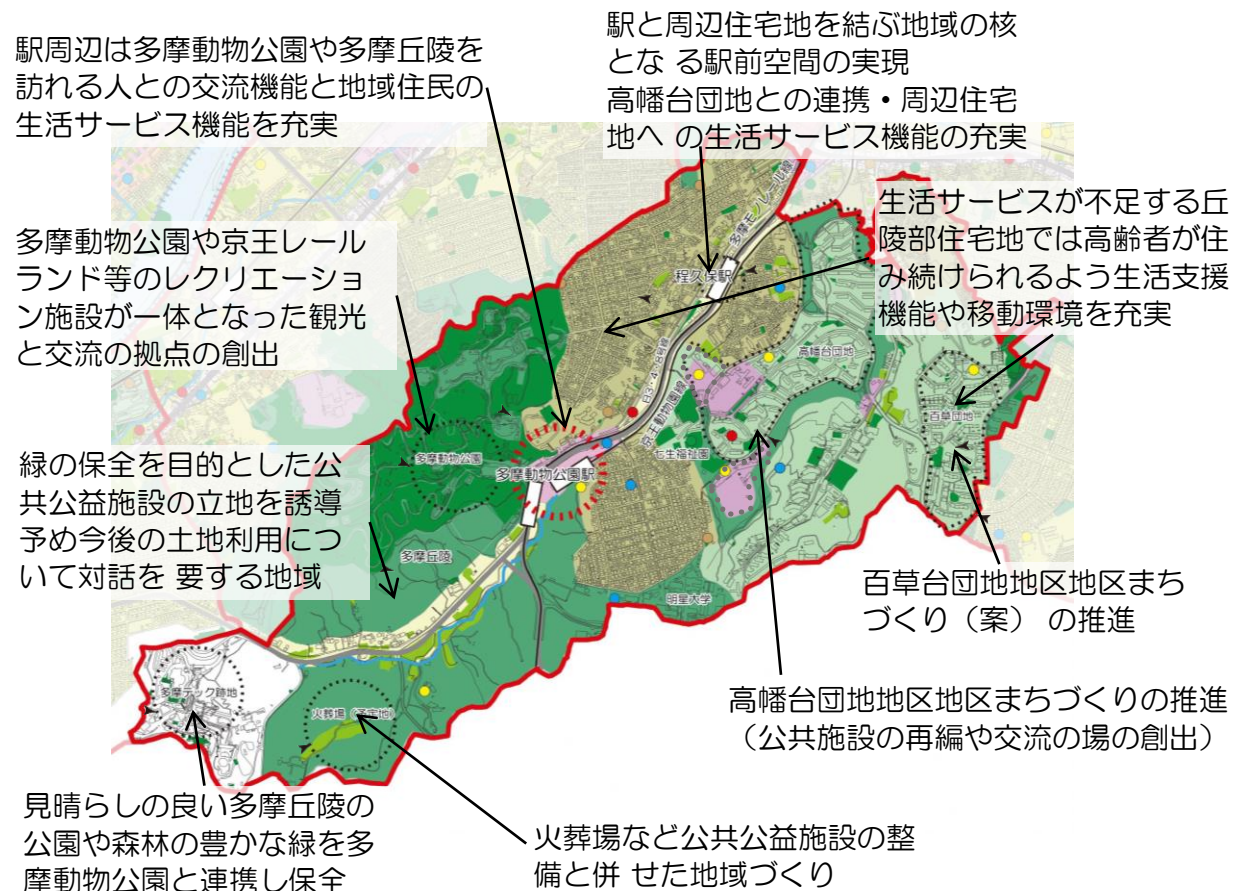
### ○三沢中学校地域

	高幡不動と里山が息づくまち
自然・農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>●農地や水路、浅川と程久保川合流点ワンドなど、自然とふれあえる場所をつなぎ市民の活動拠点とする。</li> <li>●倉沢周辺の里山を、多くの人を訪れる活動拠点とする。</li> </ul>
住宅地・生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●北河原公園を防災拠点として周辺住宅地の安全性を高める。</li> <li>●三沢の丘陵部住宅地の街並みと住環境を残しながら、高齢者が住み続けられるよう生活支援機能や移動環境を整えていく。</li> </ul>
拠点・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●高幡不動駅周辺は、高幡不動尊や商業施設等の集積を活かし、多くの人が集まり魅力ある拠点を形成する。</li> <li>●百草園駅周辺は、住民の生活サービス機能の充実や、百草園や自然を訪れる人々の交流拠点としていく。</li> </ul>



### ○第三中学校地域

	多摩丘陵の玄関のまち
自然・農地	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩丘陵の公園や森林の豊かな緑を多摩動物公園と連携し保全していく。</li> </ul>
住宅地・生活基盤	<ul style="list-style-type: none"> <li>●丘陵部では、急傾斜地の住宅整備を抑制するなど、土砂災害の安全性を高める。</li> <li>●程久保の丘陵部住宅地では、高齢者が住み続けられるよう生活支援機能や移動環境を整えていく。</li> <li>●高幡台や百草団地の緑豊かな住環境を活かし、住み続けられる魅力ある団地へ再生していく。</li> </ul>
拠点・産業	<ul style="list-style-type: none"> <li>●多摩動物公園駅周辺は、多摩動物公園や多摩丘陵を訪れる人との交流機能や、地域住民の生活サービス機能を充実していく。</li> </ul>



#### 住宅系土地利用

- 日野の原風景が残る  
自然と共存する地域
- 生活基盤を活かした  
身近な緑と触れ合える住宅地
- 昔ながらのまち並みを大切にしながら  
住宅の持続性を高める地域
- 地域の拠点としての役割を担う  
にぎわいのある住宅団地
- 駅近くの利便性が享受できる  
共同住宅が集積した住宅地
- 車利用の利便性を実感できる  
沿道型住宅地

#### 商業系土地利用

- 商業・業務等の都市機能と  
交通機能が集積した都市拠点
- 車利用者へのサービス施設が充実した  
沿道商業

#### 工業系土地利用

- 日野の産業と雇用を支える産業拠点
- 住工が共存する活気のある地域

#### 自然的土地利用

- 大規模公園・緑地
- 河川

- 都市・生活拠点の機能充実
- 沿道の施設誘導
- 余裕教室等を地域の  
活動拠点として利活用

- 公園
- 農地
- 用水

- スーパー・コンビニ
- 小学校・中学校
- 幼稚園・保育園
- 病院・診療所
- 福祉サービス施設
- 地域包括支援センター
- 地区センター・交流センター